

# 単元設定の特色

現行学習指導要領に示された内容(8)「生活や出来事の交流」は、それ自体を単元として取り上げていませんが、様々な単元のあらゆる場面で、地域の方や身近な幼児や高齢者、障がい者、外国籍の人などとの交流を通して、自分のあり様に気付いていく子どもの姿を示しました。

## いつものばしょ

(上巻 P18.23)



### 身近な自然とかかわる暮らし

この領域では自然をめぐる「原体験」を大事にします。季節を越えて繰り返し野に出ることにより、その自然を心地よいと感じ、自然に応じる心と体を期待します。



## いっぱいみのって

(下巻 P30.31)



### 植物や作物とかかわる暮らし

花や作物を大切に育てたり、自らの手で加工し食したりすることは、生活者としての原型です。アサガオやダイズ・小麦を育て、それらを育ててきた自分や、支えてくれた人やものへのおもいを深める子どもを期待します。



## いきものと いっしょ

(上巻 P70.71)



### 生き物とかかわる暮らし

多数の学校での実践の裏付けをもとに、ウサギを中核にヤギ・カタツムリ・カイコ・アイガモ・ハムスターなどを示し、選択肢や発展性をもたせました。なおヤギの場合は子どもの発達段階を考慮し、敢えて「子やぎ」という条件を添え、2年生の巻末に飼育活動の収束を示し、生き物と暮らしをともにすることの意味を考えてほしいと願っています。



## わたしたちが すむ 町

(下巻 P62.63)



### 地域の人やもの・ことに かかわる暮らし

身近な幼児や高齢者、障がいのある人、外国籍の人などとの交流を通して、単に人とのかかわり方や接し方を身につけるだけでなく、相手の立場に立って自分のあり様に気付かされたり、相手から生き方や考え方、知恵などを学んだりして、共生社会の大切さに気付いていく姿を示しました。



### 物づくりを楽しむ

「はしれはしれ」「すすめすすい号」「てづくりおもちゃ」は、身近な材料を使いながら、子どもたちの好奇心や冒険心・疑問を引き出すとともに、試行錯誤しながらも、動くおもちゃや自分たちが乗れる船を自分の手で作り上げていく楽しさや達成感を味わうことを大切にしています。



### 伝統的な行事を味わう

「たんごのせっく」「たなばた」「おつきみ」「はるのななくさ」「ひなまつり」という五節句や祭りなど、伝統的な行事を取り上げました。季節に併せて様々な行事を行ってきた人々の営みを実際に調べたり用意をしたりして行うことで、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる姿を期待します。

### 家族とかかわる 小単元「わたしと かぞく」

生活科の学習は、学校生活だけに留まらず家庭においてもその営みは波及して、家庭生活の中に学習成果が発揮されたり、家族が子どもの発見や気づきを共有し合ったり、子どもの育ちを認め合ったりする姿となって現れてきます。そこで、家庭での営みや家族とのかかわりの場面を大事に考え、「家庭の場面からはじまり、家庭の場面で終わる」構成にしました。



### 自分の成長や活動を振り返る

小単元「大きくなったわたし」「生活科の二年間」自分の成長や活動の歩みを振り返ることは、自身の存在感を実感し、周りの人々への感謝の気持ちをもつとともに、これからの自分の生活を、より意欲的に充実させていこうとする育ちにつながります。そこで、様々な手がかりをもとに自身の成長を振り返るようにしました。